

社会福祉法人 伸こう福祉会「介護と保育の季刊情報誌」

クロスハート&キディ

Crossheart & KIDDIE

Summer

vol. 3

July
2011

特集

座談会

地域と

とともに歩む

— 地域社会における福祉施設の役割

CONTENTS

- P. 5 健康クリニック「熱中症」
- P. 6 ご自宅での介護に困った場合
- P. 7 Crossheart & KIDDIE KITCHEN
- P. 8 仲よしファミリー「母娘」
- P. 9 福祉の現場
- P.10 施設訪問「キディ湘南 C-X」
- P.12 from Crossheart & KIDDIE staff
- P.13 伸こう福祉会 Information
- P.15 Message & 伸こう福祉会施設一覧



社会福祉法人
伸こう福祉会



写真左から
浅尾慶一郎先生、
近藤ナオ氏、
有山志津子

東日本大震災を機に、人と人とのつながりや地域社会での助け合いが見直されています。伸こう福祉会では、これまでも地域の皆さまのご協力をいただきながら、活動をしてまいりましたが、これからも地域づくりに貢献するため、皆さまとのふれあいを大切にしていきたいと考えています。そこで今回の特集では、地域コミュニティに深く関わっておられる浅尾慶一郎先生、近藤ナオ氏にご登場いただき、法人本部スタッフ・有山とともに、「地域とともに歩む」をテーマに話し合っていました。

特集 座談会 地域とともに歩む

地域社会における福祉施設の役割

共通の嗜好でつながる

—— まず始めに、皆さまが関わっている地域について、お伺いしたいのですが……。
浅尾 私の地元は横浜市栄区と鎌倉市、逗子市、葉山町で、共通した特色があります。昭和40年代、50年代に土地を買って移り住んだ方が多く、その方たちが高齢化を迎え、県内でも高齢化が進んでいる地域ですね。また鎌倉、逗子、

葉山は戦前からの別荘地でもあります。

日本全体では地域社会の存在というものが大分希薄になってきているのではないかと。無関心が地域社会の崩壊を呼ぶ、孤独死を招くのです。幸い、私の地元では孤独死はありませんが……。

近藤 私の会社は、町づくりをテーマにコンサルティングを行っています。町中の生活に関わることで、自分たちが一当事者として、こんなもの

があつたらいいなと思うものをいろいろなパートナーの人たちと形にしてみました。

その中で、特徴的なのがシブヤ大学です。渋谷の町すべてをキャンパスにし、先生を外から呼ぶのではなく、住んでいる人や働いている人が自分の得意なことを活かして先生になるという仕組みです。祭り、デザイン、食などと

いった興味あるキーワードを投げかけて、授業で出会った人たちがそこに関係性を結んでいく、ということに重きをおくプロジェクトで、同じ嗜好性を持った人たちが出会っ

て、いろいろな分野でコミュニケーションをつくっていくことを念頭においてやっています。

浅尾 地域に集まれる場所をつくるというのは、大事なことだと思います。例えば私の地元ですと、「葉山アートフェスティバル」というのがあります。3週間位、いろいろな人がそこに作品を展示します。また「極楽寺・稲村ヶ崎アートフェスティバル」として古い民家を使った展示会も行っています。

また由比ヶ浜の浜辺では、オープンスペースの海浜公園

で「鎌人いち場」というものがあります。「そろばん塾」という集まりもあります。「そろそろわれわれ世代の定番だ」という意味なのですが、いろいろな人が2カ月に1回集まっているというのを学びます。勉強会といっても30〜40分で、そ

の後は懇親会になったり(笑)。いずれのイベントも、それぞれの人が嗜好性のあるところに行つてつながる、出会うというのがポイントです。

地域の人が出会う場を

—— 伸こう福祉会では地域との関わりは非常に重要なことと考えています。福祉施設と地域との関わりについてどのようにお考えですか？

浅尾 高齢化が進む中で、施設への期待が高まるというのは、どこの地域でも共通していると思います。福祉施設がそこに来られる方だけを対象にする以上、たとえばボランティアの機会を地域の方に開放すると、地域と溶け込めると思いますし、ボランティアだけでなく、単に遊びに行けるといふ福祉施設があれば非常にありがたいなと思います。集まれる場所があるというところが、地域社会の核になるんだと思います。

近藤 私は伸こう福祉会の「まちの保育園 キディ湘南



だき、ボランティアで来ていただく、そのような機会、スペースを用意したいと考えています。

また、高齢者の方でもまだまだお元気でいろいろな能力を持っている方が多いですね。そういう意味で、地域雇用の創出ということも視野に入れています。

近隣の小中学校と連携して福祉教育のようなことができたらいいなとも思っています。

地域の特長をコミュニティの核に

—— 高齢者専用賃貸住宅や高齢者向けのマンションなども増えていくと思います。そこに住まわれる方にとって施設の中だけがコミュニティということになると、地域との





関わりが希薄になってしまうのでは？

有山 そういった施設に入居を希望する人たちにも、住み慣れたところに住み続けたいという、潜在的な思いがあると思うんですね。そのような方々のために、こちらから訪問する、あるいは通ってきてサービスを利用していただく、泊まっていたり、といった「訪問・通い・泊まり」という多機能施設も、私どもは今後運営していきたいと思っています。

近藤 施設に入っても地域の人と出会える仕組みや、自然に会うことができるような少し前の町内会&商店会があれ

ばいいと思っています。僕の理想は、住んでいる人と遊びに来る人、働いている人を取りこめる新しいタイプの自治組織です。そのような組織があれば、その地域はうまくいろいろな問題を自分達で解決していけるかなと、漠然と思っています。まず地域の特長をつくっていくのがいいでしょう。

浅尾 「クロスハート栄・横浜」のレストランは地域に開放していますよね。

有山 はい。「クロスハート栄・横浜」には地域の方向けのレストランがあります。その他にも地域ケアプラザ内の情報ラウンジに珈琲コーナーがあり、そこが地域の方の情報交換の場になっているようです。

—— 地域力は場所によって違っている、と感じます。若い人より、むしろ60代の方が町づくりは自分たちの手でというパワーをお持ちのように感じます。

近藤 僕が重要だと思っているのは、たとえば、地域を良くしていくこう、という会をつくろうとするとき、その地域のネットワークの中心になれる人達、その先に1000人、1000人も人がつながっている人達で組織をつくること。そういった人はバランス感覚が優れていますので、そういう人達と定期的に集まり、地域に何か必要かを話し合っていければいいと思います。

それと、もう一つ、お祭りには地域交流の核になると思います。祭りは誰かが1回目をやったわけで、今ない地域でも、今年やればいい。1年1回でも100年後には100回になる。

浅尾 地域ケアプラザは餅つき大会もやっていますよね。仲こう福祉会に他の地域のモデルになるようなものをつくってほしいですね。

近藤 地域に応じた祭りがやれたらいいですね。たとえば、牡蠣の養殖をやっている地域では、帆立貝が海岸にたくさんあるので、その貝をどこま

で遠くに飛ばせるかを競う祭りをやったそうです。そういうのをつくっていただけらいいな、と。

浅尾 帆立貝に代わる、福祉施設ならではのイベントができればいいですね。

有山 私達も各施設がお世話になっている地域としっかりつながり、地域のお役に立つイベントなどを考えていこうかと思っています。

—— 本日はありがとうございます。

